



Windomの解答速報 埼玉医科(後) 英語

合計 150 点

1

【解答と予想配点】 [小計 20 点]

- 問1 ① [2 点]
- 問2 ① [2 点]
- 問3 ② [2 点]
- 問4 ② [2 点]
- 問5 ④ [2 点]
- 問6 ④ [2 点]
- 問7 ③ [2 点]
- 問8 ④ [2 点]
- 問9 ③ [2 点]
- 問10 ① [2 点]

2

【解答と予想配点】 [小計 32 点]

- 問1 ① [4 点]
- 問2 ① [4 点]
- 問3 ② [4 点]
- 問4 ④ [4 点]
- 問5 ③ [4 点]
- 問6 ④ [4 点]
- 問7 ③ [4 点]
- 問8 ① [4 点]

3

【解答と予想配点】 [小計 34 点]

- 問1 ② [4 点]
- 問2 ① [4 点]
- 問3 ④ [4 点]
- 問4 ② [4 点]
- 問5 ① [4 点]
- 問6 ④ [5 点]
- 問7 ④ [5 点]
- 問8 ① [4 点]

4

【解答と予想配点】 [小計 32 点]

- 問1 ④ [4 点]
- 問2 ② [4 点]
- 問3 ① [4 点]
- 問4 ① [4 点]
- 問5 ③ [4 点]
- 問6 ④ [4 点]
- 問7 ③ [4 点]
- 問8 ② [4 点]

5

【解答と予想配点】 [小計 32 点]

- 問1 ④ [4 点]

- 問2 ① [4点]
問3 ③ [4点]
問4 ① [4点]
問5 ② [4点]
問6 ① [4点]
問7 ② [4点]
問8 ③ [4点]

〔総評〕

全体として解きやすい。しかし、後述する様に、大問3が難しいので、解く順番としては、大問1→大問2→大問4→大問5→大問3が良かったであろう。

なお、全体の問題構成はほぼ例年通りである。

ただし、大問1では、昨年度まで2問あった整序英作がなくなった。この点は、およそ形式論理的な設問を排除したという点では、積極的に評価出来る。しかし、昨今の入試英語の流れとして、東京医科大の様に、記述問題を取り入れていることを考えるならば、いつまでも選択系の問題ばかり作らずに、記述系の問題を英作文として採り入れるべきであると提言したい。

大問2は、雑音を生活環境から排除することで脳の働きが高まることを主題としている。平易な会話文で、特に難度は高くない。というよりも、大問1と並んで、完答が狙えるレベルである。

大問3は経済格差の可視化によって、その格差が拡大したり縮小したりすることが論じられている。社会科学、特に経済学的な議論なので、普段から医療系以外の社会科学的文献を読んでいないと考えにくかったであろう。およそ医学部を受験するにも、医療系以外に、政治・経済・国際関係など他領域の問題に関心を持っていることは必須のことである。例えば、本問で問題としている経済格差は、当然のことながら医療格差にも繋がる。その様な広い問題意識がない人間は「医療人」に相応しくない。逆に言えば、そうした問題意識を持てば、医療とは一見関係ない領域にも興味がわくというものであろう。

大問4は人体の装飾が社会的共同体の成員となるのに必要なことを述べた論考である。社会学、特に、文化人類学の領域の議論で、非常に面白い。

大問5は言語機能に関わる脳腫瘍を患った女性を手術する執刀医の苦悩を描いた論考である。本年度の入試では、この問題だけが生粋の医療系である。

以上を総じて、大問1で文法問題が基本的問題を使って多様な論点を問題としている点と、大問2～5で読解問題の論点が多義に分かれている点で、総合的な知識が問われる構成となっている。なお、設問が全体的に平易であったことを考えると、合格点は高めだろう。